竹冠翁之碑

竹冠翁之碑

古舘山と川越の中間にある出夫山に、高さ一、五メートルぐらいの丸い石に細々と漢字の刻まれた「競竹院冠山道英居士之碑」が建っています。居士は数代前の菅野新佐衛門氏で、竹冠と号しました。

碑文には、翁は金持ちであったが、単に金を貯えるだけでなく役に立つ使い方をしていたこと、学者であるとともに風雅も愛し、その名声は遠く白河侯にまで及んでいた様子が記されています。

碑文

竹冠翁諱内宗菅野氏築舘人家世以冨聞翁為人淳序喜讀周易頗通暁大義處於持籌握算之際而恬如也賞語其子姪日財多必招忌豈齷齪以身殉之哉然今而斂之財稍易盡雖得高人曠達之譽抑負先世桔梧之勤故財多則運運則生息日繁窮民貧佃或不能償為收本而減息焚券而貰之則足聴閭里之頌颺仗義急公因匱而助之可受官司之奬勵果如是則無損於材而有益於彼覬覦者息而讐怨者稀汝輩以一念之刻莫為衆射之的其言諄々殆有温藉之風是以家道日興矣翁乃日行酒囲碁或引誹客吟詠於花木之間白河侯徴見而善之甚見禮重為一日與弟某碁巷談如常俄而逝矣文化八年閏一月七日也享年五十八女二皆菅野氏出銘日

有徳　以財聚人　維彼不淑　以財間身

吾観